

## ウェルビーイング・SDGs 推進ファンド事業選定状況について

### 1 応募状況

令和7年6月11日から6月30日までの期間で提案を募集した。

- (1) 件数  
全8事業
- (2) 分野  
環境、地域活性化、女性福祉、高齢者福祉、親育ち、子どもの居場所、  
子どもの体力向上、空間デザイン

### 2 第一次審査（書類審査）

令和7年7月14日に第一次審査（書類審査）を実施した。

- (1) 審査基準  
「ウェルビーイング・SDGs 推進ファンド実施要領」の「6. 申請できる企業・団体等」と、「7. 対象となる事業」に記載している申請条件を満たしているか。※右記参照
- (2) 審査結果  
①第一次審査通過 6事業  
②第一次審査不採用 2事業

### 3 第二次審査（プレゼンテーション）

令和7年8月22日に第二次審査（プレゼンテーション）を実施した。

※1事業者30分：説明（10分）→質疑（15分）→採点（5分）

- (1) 審査方法  
審査員が各評定項目について採点を行い、全審査員の総合評価に基づき、選定した。  
①評価点の考え方について  
審査員の採点を評定項目ごとに平均し、提案事業ごとに合計点を算出し、評価点とする。  
②最低基準について  
評価点100点満点中60点を最低基準点とし、最低基準点を満たさない場合は原則選定しない。
- (2) 審査結果  
①第二次審査通過・選定 6事業 ※別紙参照  
②第二次審査不選定 なし
- (3) 助成金額合計  
¥16,322,000-

#### 【参考】助成金額

1年目：事業費のうち助成対象経費の5分の4以内で、1事業あたり上限500万円  
2年目：事業費のうち助成対象経費の2分の1以内で、1事業あたり上限300万円

### 4 今後のスケジュール

令和7年9月19日（金） 助成金の交付（概算払）  
令和8年3月 実績報告、調査・助成金の額の確定、成果報告

### 【参考】審査基準

**第一次審査（書類審査）基準**（「ウェルビーイング・SDGs 推進ファンド実施要領」より抜粋）

6. 申請できる企業・団体等 ※（1）から（4）のいずれかに該当し、（5）の条件を満たす
  - (1) 日本国内にて次の法人格を取得している団体  
一般財団法人、一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人、特定非営利法人
  - (2) 中小企業：中小企業基本法に基づく中小企業者  
ただし、発行済株式の総数又は出資金額の2分の1以上が同一の大企業の所有に属している会社、大企業の役員を兼ねている者が役員総数の2分の1を占めている会社は含まない。
  - (3) スタートアップ企業：創業5年以内で国内に拠点を持つ上場していない企業に限る
  - (4) 大学、研究機関：大学、高等専門学校、国立・公設試験研究機関、研究開発を行っている独立行政法人及び公益法人
  - (5) 応募時に、過去3年分の財務諸表を提出できる企業・団体等（活動実績が3年に満たない場合は、最低1年以上の財務諸表を提出できる企業・団体等に限る）
7. 対象となる事業 ※（1）から（5）の全てを満たす
  - (1) 区の課題に的確に応える提案であり、区を実証実験のフィールドとする事業
  - (2) 公益性のある事業であり、一定の課題の解決や社会的要請に応えることができ、具体的な成果が見込まれる事業
  - (3) 予算の見積もりが適正であり、提案の翌年度以降、助成がなくても提案者によって実施することが可能な事業
  - (4) 先駆性、新しい視点、アイデアなどが含まれており、提案者の専門性や強みを生かした事業
  - (5) 国や地方公共団体から補助金等の交付を受けていない事業

### 第二次審査（プレゼンテーション）基準

<審査基準の観点>

項目	内容
事業目的（必要性） （20点）	・事業の目的が明確で、ファンドの目的に合致しているか。 ・地域ニーズや地域課題、社会課題を正確に理解し、課題に対する具体的な解決策が示されているか。SDGsに資する事業であるか。
内容（有効性） （30点）	・事業の内容が具体的で、目的と整合したものになっているか。 ・事業計画・スケジュールが具体的で、実現可能なものになっているか。
実施体制 （15点）	・実施体制（財務状況、人材、技術等）や責任体制が明確で、計画的な事業実施が期待できるか。
成果 （15点）	・成果（時期、数値、指標、状態など）が具体的に計測可能か。また、適切なアウトカム指標が設定されているか。 ・区全体への展開、効果の波及が期待できるか。
コスト （10点）	・収支のバランスがとれ、費用の使途は事業目的に対し妥当か。 ・積算根拠が具体的かつ妥当に記載されているか。 ・資金計画が具体的であり、資金確保が考えられているか。
将来性 （10点）	・今後の事業の発展性が期待できるか。 ・助成終了後も事業の継続が期待できるか。 ・提案事業者の強みや専門性、独自性、先駆性が発揮できる内容であり、またそれが具体的に示されているか。

<選定事業>

事業者名	事業概要<①目的 ②内容 ③事業計画[実施場所]>	
	助成金額 (総事業費)	主なSDGsのゴール
株式会社 タンソーマン GX		<p><b>申請事業名: 中小企業向けAI電気相談所設立プロジェクト</b></p> <p>①・電力コスト高騰と脱炭素要請に直面する区内事業所の温室効果ガス排出量の把握を支援する。 ・脱炭素施策の意思決定期間を短縮し、中小企業の競争力と区のネットゼロ目標を同時に加速させる「品川モデル」を確立し、区内全域への水平展開を図る。</p> <p>②品川産業支援交流施設 SHIP オープンスペース等に iPad 端末を常設し、「AI 電気相談コーナー」を設置する。利用者が電気やガスの明細書を端末からアップロードすることで、AI が 60 秒以内に CO<sub>2</sub> 排出量と電力コスト推移を自動可視化（使用電力量と料金推移、CO<sub>2</sub> 排出量と削減可能量、最適な再エネ・省エネ手段、該当する補助金制度）を行う。</p> <p>③9月～11月：準備（サービス設計、設置場所調整、AI 開発等） 11月～：AI 電気相談コーナー稼働開始 [品川産業支援交流施設 SHIP (予定)] 1月：「AI×電力コスト削減」説明会開催 [品川産業支援交流施設 SHIP (予定)] 1月～2月：成果確認 2月：成果共有イベント開催 [品川産業支援交流施設 SHIP (予定)]</p> <p>助成期間終了後：再生可能エネルギー・省エネ設備導入支援やコンサルティングにより収益を確保する体制を整え、サービスの持続可能性を担保する。</p>
	¥2,000,000 (¥2,500,000)	
ノバルス株式会社		<p><b>申請事業名: 高齢者ヒヤリハットサポート事業</b></p> <p>①独居高齢者の生活異常を早期に検知し、自宅でも安心して暮らし続けられるよう支援する。</p> <p>②事業者の既存製品「みまもり電池」（センサー・通信機能を内蔵した電池型 IoT デバイスと、高齢者が日常的に使う機器を用いて高齢者の安否を確認するサービス）において開発中のヒヤリハットアラートについて、検証を行い、独居高齢者が自宅でも安心して暮らし続けられる支援システムを開発する。</p> <p>③7月～9月：準備（実証内容の詳細協議、在宅介護サービス利用区民を対象に参加者募集、実証機材準備等） 10月～：実証機材設置、実証開始 [実証実験協力者自宅] 11月：中間検証 (ヒヤリハットアラート検知内容・精度・通知タイミング等有効性確認) 1月：実証機材回収、分析 2月：結果集約</p> <p>助成期間終了後：実証実験協力者へのアンケートによりシステムへの満足度を向上させるとともに、データとの照合により誤検知率の改善により、事業化し収益化を図る。</p>

	¥1,968,000 (¥4,656,000)	
エフバイタル株式会社		<p><b>申請事業名: 「子どもの強み」をAIで発見!? 品川Style 親育ち講座</b></p> <p>①AIによる「個性発掘」「個別最適のペアレンティング」技術、人材育成のノウハウ・ネットワークを用い、品川区が推進している「親育ち」事業を活性化し、保護者に楽しみながら医学的・発達の正しい知見を提供し、「子どもが安心してチャレンジできる環境づくり」に取り組む。</p> <p>②スマートフォン（動画撮影）を使って子どもの個性を発見し、その子一人ひとりにあった関わり方を提示できるAI技術を使う体験会および「親育ち」（ペアレンティング）講習会を実施する。あわせてWEBでの情報発信を行い、参加が難しい対象者へもアプローチする。</p> <p>③9月～10月：準備 (区内パイロット調査、企画・会場決定、特設サイト開設準備、アプリ追加開発) 11月：ひとり親向け「親育ち」講座・体験会 [こみゆにていぶらざ八潮 (予定)] 12月：次回企画調整、特設サイト開設 1月：共働き向け「親育ち」講座・体験会 [きゅりあん小ホール (予定)] 1月～2月：データ解析、成果まとめ</p> <p>助成期間終了後：参加費を設定してのイベント継続や、一部機能のスマートフォンアプリ化による自治体への導入を図る。</p>
	¥4,997,000 (¥8,046,380)	
株式会社 HATHM		<p><b>申請事業名: スポ超式・運動神経向上プロジェクト</b> ～「運動音痴」をなくす! 次世代キッズスクール創設に向けた実証事業～</p> <p>①トップアスリートの専門的知見を活用した「運動体験の質の向上」が、子どもたちのウェルビーイングにどのような良い影響を与えるかを検証する。取得したデータに基づき、令和8年度に「スポ超キッズスクール」を本格開校し、地域に根差した持続可能な教育モデルを構築する。</p> <p>②8月のキックオフイベントとそれに続く月次ワークショップを通じ、参加児童の運動能力や自己肯定感の変化を測定・分析する。</p> <p>③6月～8月：準備（協力アスリート・企業との調整、広報等） 8月23日：スポ超キッズフェス開催 [東京健康科学専門学校] 9月～：月1回のワークショップ開催 [東京健康科学専門学校] 1月～2月：実証内容評価、次年度計画策定</p> <p>助成期間終了後：客観的なエビデンスに基づいた事業評価により、区内他地域や他自治体にも展開可能なモデル事業を構築し、収益化を図る。</p>
	¥2,591,000 (¥3,967,780)	

一般社団法人 めぐもり (2年目)	<b>申請事業名:目黒駅前ウェルビーイング up プロジェクト</b>	
	<p>①これまで目黒駅前地域で活動を行う中で認識してきた、一人暮らしをするシニア世代の孤独・孤立や孤独を感じる若者世代の存在、子育て世帯の相互交流の不足、子どもたちの世代間交流の不足に加え、地域活動の担い手不足、防災・防犯への備え不足といった課題を踏まえ、地域において世代を超えた様々な形で交流できる企画を日常的に展開することで、地域の人々の間に「ゆるやかなつながり」を作る。</p> <p>②モーニングパーク Sunday、自由研究ゼミ、ハロウィンイベント、CCC 目黒、目黒駅前カイギ、いい運動会、算数ゲームランド、シェアガーデン収穫祭、かまどごはんの日、本の日、街焚き火などの各種イベントを実施する。助成2年目となる今年度はイベント開催時に以下のとおり取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアスタッフを積極的に募集し、地域でのボランティアニーズを掘り起こし、活動の担い手と出会う機会を増やす</li> <li>・町会や住民団体と協力関係を結びながら開催し、活動担い手と町会・団体とのマッチングにつなげる</li> <li>・CSR に関心を示す企業関係者のイベント参加等により、来年度以降の支援体制強化を目指す</li> </ul> <p>③6月～2月：様々な切り口でのイベントの定期開催 [E-Park、STUDIO EASE 等]</p> <p>助成期間終了後：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント参加へのハードルを下げるため、参加費は可能な限り低額に抑え実施する。</li> <li>・イベントごとに参加者アンケートを実施するとともに、継続的なヒアリングにより各イベントの効果測定とブラッシュアップを図る。</li> <li>・賛助会員や企業協力の獲得に向けて働きかけ、事業継続を図っていく。</li> </ul>	
	¥1,766,000 (¥3,553,577)	 
株式会社 ラヴィプラス (2年目)	<b>申請事業名:拠点型テーマ発見コミュニティの運営</b>	
	<p>①オンラインや公園、都度確保するスペースで活動を行ってきたが、品川区武蔵小山にオープンした拠点を通して、「遊びを通じた子どもたちの自立、成長促進」「多世代との交流、共同プロジェクトの遂行による若者のキャリア支援」「親世代の交流や地域に根差した活動を通じた新たな社会接点の創出」を拡大していく。地域との繋がりをより強固にし、「場所」のコスト軽減手法の検討や、人材確保・育成へ取り組むといった、昨年度直面した課題へのアプローチにより、持続可能な事業モデルを構築する。</p> <p>②子どもを軸としたZ世代との活動を通して、子どもにとっての学校・家庭・塾以外の居場所を創出し、若者・大人世代を含めた全世代のキャリアを思考できる拠点として武蔵小山にオープンした「しながわPlace」にて、週に3回子どもたちが遊べるスペースをオープンし、そこに集まった子どもや若者たちが遊び、交流することで自ら考え成長するきっかけを生み出す。また、2ヶ月ごとにテーマを設定し、そのテーマに沿ったイベントや活動を実施する。</p> <p>③6月～2月：週末（金・土・日）のしながわPlace 運営 [しながわPlace] 月ごとのイベント運営 [しながわPlace、スクエア荏原、パークシティ武蔵小山 THE MALL、区内公園]</p> <p>助成期間終了後：</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的なチラシ配布をベースに、SNS を通じた告知により広報活動を行う。</li> <li>・参加者へのアンケートにより、子どもたちの満足度と保護者の負担軽減を評価する。</li> <li>・地域や企業との共催により、地域での子育て支援環境の活性化につなげる。</li> <li>・子ども向け開放日以外はレンタルスペースとして運用し、収入増加・安定化を図る。</li> </ul>
¥3,000,000 (¥12,284,589)	 

<提言内容>

No.	提言テーマ	内容
1	投票率9割超、積極的な政治参画が当たり前の社会に	2026（令和8）年度に行われる品川区長選挙で、子ども（小学1年生以上の未成年）が品川区長選挙の候補者に投票する「こどもせんきょ」を正規の選挙と同日に開催する。また、子どもたちが主体的に学び選挙に関心を持てるように、「こどもせんきょこうほう」の作成や「公開討論会」等を実施する。
2	SNS犯罪・トラブルに巻き込まれる子どもを守るために	「市民科」のカリキュラムにSNS講演会の実施を義務化し、保護者も参加可能とすることで親子でSNSリテラシー向上を目指す。また、学校が講演会をスムーズに実施できるように「しながわSNS安全支援パック」というサポート制度を設ける。「広報しながわ」へのコンテンツ掲載やSNS利用実態調査の定期実施を行う。
3	デジタル情報発信力を強化し、区民の「知らなかった」をなくす	若者世代への公式LINEのプロモーションを強化し、区民一人ひとりに合わせた情報のセグメント配信を行う。さらに、小中学生へのiPadを使ったデジタル情報発信を通じて、情報を必要としている人にニーズにあった情報が行き渡る仕組みをつくる。
4	タバコの害を与えない受けられない社会へ	若い世代の受動喫煙ゼロを目指し、通学時間帯の禁煙への協力を呼びかける。また、小中高生が参加するポスターコンクールやSNSを活用した情報発信により、禁煙への気運醸成、タバコの害への理解促進を図っていく。
5	教員の業務負担軽減に向けた大学との連携強化	品川区が「働き続けたい職場・しながわ～学校における働き方改革推進プラン～」で掲げている「月当たりの時間外在校等時間が4.5時間を超える教員をゼロにする」という目標の達成に向けて、区内6大学との包括協定を活用した大学生による教員支援促進を提案。大学生の支援員が増えることにより、学校教員の負担軽減と子どもと向き合う時間の増加、そして未来の教員志望者育成にもつなげる。
6	西大井駅周辺の明るいまちづくり	西大井駅前のロータリー、駐車場、広場等でキッチンカー・屋台・ハンドメイド出店によるマルシェイベントを開催する。また、「にぎわいと人とのつながりができる理想の広場」をテーマに、西大井駅前広場の理想的な使い方・空間デザインを募集するコンペを実施する。
7	旧東海道の活性化～立会川から青物横丁～	立会川から青物横丁エリアの活性化に向けて、歴史やグルメなどが楽しめるマップを作成し、主に大井競馬場で開催されるフリーマーケットやシアターHを訪れた人々に足を運んでもらう。同時に地域のボランティアによるツアーや品川区のSNSでの発信も強化し、マップでは伝えきれない魅力も発信していく。
8	地域企業と連携したSTEAM教育による人材育成	区、学校、企業が連携して体験型イベントや出前授業を実施し、SNSや地域メディアを活用して取組みを発信する。また、地元企業と学校が連携した課題解決型プロジェクトや講座を開催するとともに、企業と連携した長期プロジェクトやインターンを実施する。
9	「危機感の継承」をテーマとした新しい環境モデルを導入し、品川区を2.3区の環境教育の先導都市にする	「危機感の継承」を軸とした新しい環境教育モデルを提案する。品川区立学校5～7年生が低学年へ授業を行う体験型プログラムを実施。学びを“教える”体験を通じて深い理解と責任感を育み、次世代へ環境保全の意識をつなぐ仕組み。学校やエコルとごしとの連携を強化し、品川区を環境教育の先導都市にすることを目指す。
10	子ども食堂を軸とした子ども支援の促進	子ども食堂を子どもの貧困のための場所ではなく、「第三の居場所」であるという広報活動を行う。そのために、SNSや学校掲示板、区報を活用する。また、子ども食堂の機能に応じた段階的な補助金を交付することで、「第三の居場所」としての環境づくりを促進する。

中高生リバースメンター事業実施状況について

- 1 目的** 中高生自らが政策提言をし、社会を変える実感を持つことによって、SDGｓ未来都市計画において区が目指している次世代の担い手の育成と、「子どもとともに創るウェルビーイングシティしながわ」の実現へつなげる。
- 2 事業概要** 中高生が、専門家や区職員からサポートを受けながら、区の地域課題や社会課題について自身の問題意識を深堀り、アイデアを磨き上げ、政策を立案。検討した内容は、区長にプレゼンテーションを実施し、事業化をめざす。

**3 実施経過**

項目	実施日	内容
委嘱式・意見交換会	6月15日（日）	・品川区長から委嘱状を交付 ・リバースメンターが自身の問題意識をもとに区長、教育長と意見交換
第1回検討会	7月6日（日）	・群馬県の先輩リバースメンターによる体験談 ・専門家からの提言案に対するフィードバックを通じて、テーマを構造化
第2回検討会	7月22日（火）	・財政課職員による予算編成についての講義 ・専門家から政策立案についての講義 ・専門家と区職員からの提言案に対するフィードバックを通じて、内容を深堀り
第3回検討会	8月4日（月）	・品川区議会議場を見学 ・提言案に関連する所管課へ質問や相談をしながら、区の事業について理解を深め、提言案を磨き上げる
第4回検討会	8月29日（金）	・専門家と区職員からの提言案に対するフィードバックを通じて、政策提言の骨子を固める ・プレゼンテーションのコツについての講義 ・エコルとごしを見学
プレゼンテーション	9月21日（日）	・検討会で検討した内容について、区長にプレゼンテーションを実施し政策提言

※全体での検討会以外に、各リバースメンターが以下のような取組みを実施

- ・社会課題の構造化練習（新聞記事の要約、課題の背景・根拠等を調べる）
- ・国内外の先進事例調査
- ・各分野の専門家や関係団体等への取材
- ・所管課へのヒアリング

**4 今後のスケジュール**

令和7年9月以降 政策提言に対して各所管課にて事業化へ向けた検討を実施